松高話

砂緣

姚一尉輔作
歌川國貞画

逍遙文庫
文庫6
996

一對男時花歌川　天竺德兵衛物語
朝茶湯一寸口切　今昔小町譚
却説浮世之助話　松縁高砂話
先讀三國小女郎　其寫繪戲俤
昔語丹前風呂　戀女房讐討双六
濱真砂石川草紙　躾草娘庭訓

播磨路よまえし。加古川教心寺の開基。教信上人の赤鹿児川教信といひし時より。出家して諸国を修達し。深山乃怪迷女乃亡霊。卯南鹿児川にあらし昔の物語と。近ごろ流行草紙よつづくどろく。祢ろの鳴物よ。四てんでろる幽霊も。燒酎火かけ名んしゃう乃おどーる。三弦ろの白囃子い。敵討の合方とろろえ。歌舞妓めろろる国家の仇討。御家狂言乃発端ろ。御代長久の網まで。哥川氏の筆勢にあらい。むろる春の奥ともなろろ。山水のわどとこひ祢ろよのこ

東都高砂ノ街
戯作者　姥　尉輔　編

文庫6
996

北方有佳人
舞歌

民部省
教房妾
都九条の遊女
後神崎の傾城宮城野

門口をへ二
ゆくあり日の
沾州

鹿児川
民部省教房
之長男光明丸
土佐国出家して
真光法師

嫉妬念深祈夜叉
風ふり身のまま

鹿児川教高之後妻
花次郎教信実母
明石御前

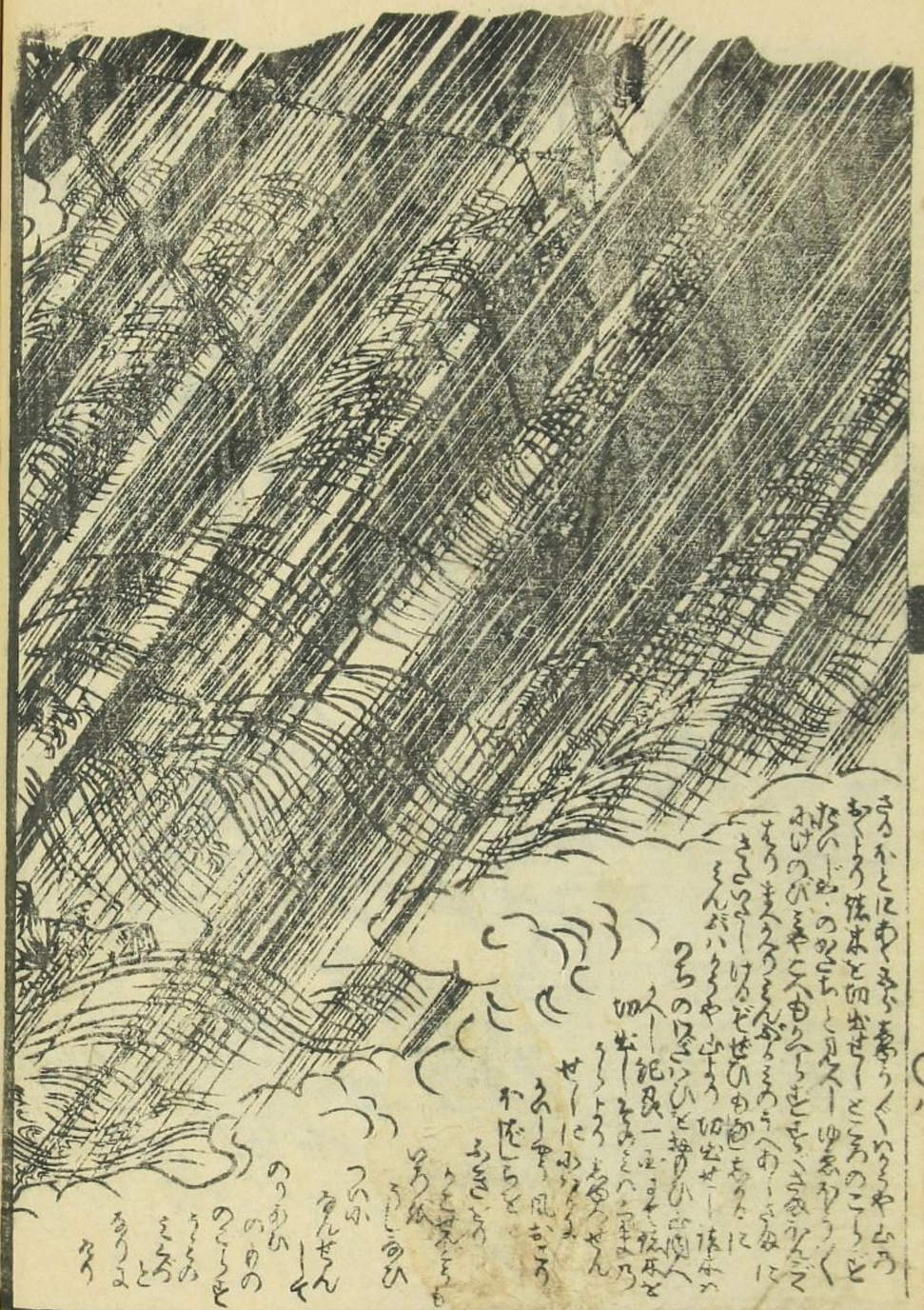
深山八
蓮谷

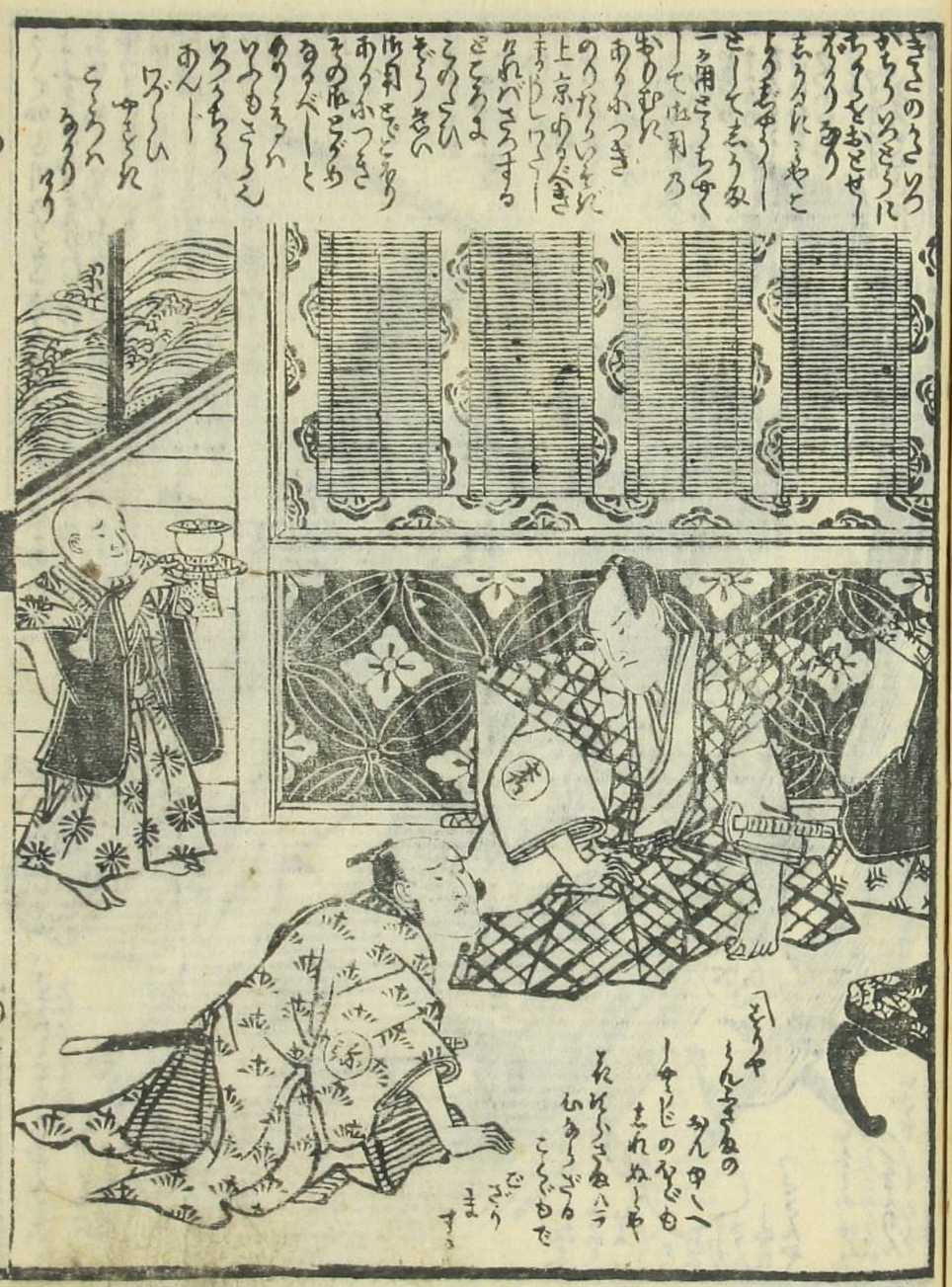
貞婦死後慕兒子
亡人无意与乳房
鹿児川
民ア省
教房妻
薗生の前
播州楫穂之住
高梨政太郎友風
後高梨吉内左門
友重

明石御前の男
岩淵悪
五郎
時国
強盗自猛
誇我威
雷鳴鈴
盗類天国

枕著
迷ひて
街路名を
苦
髑髏
牧夏也
蛇蝎
鹿児川蛇郎 教信
加古の教信法師

播磨国
蛾々洞の山神
春有地底行草街
秋張草上絲捕人
然而元誠忠
鹿児川民部省
教房僕 須摩藏





さてものうえもあくえんれ
ーくやれ人あげの者と
やれーくいかに古川のひと
さんせつのわどもえりうざ
のちそひのありーどぜんい
えんぶがあちこと成さいこまい
あくあらことこうりんとおし
ちらし給ひにいをを
うぜんとこひさちれども
花れとうるすちんさゆうの
ぬりぶおりしのうまれつき
あふえんぶくいをしうりめ
ちうつまゆうことのひとに
二人のことをもりてみぐい
そのとのまえいのなざいさんあれ
えんぶどのくみてもとてもい
さいのうえいるふーどく
ちをーどりくていをと
つうせろぐーめんさうありと
ゆをゆをなりしどぜんさいて
ちよぜんをちとまりるせぶれ
しゆうりんわるまーいない
ちをーどやさえとたんとそる
えんざんにんもどわーこうへ
山神のやこうありいわく
ひとことをうをさくげ
しのそちゆうおくのどうんを
ゆをしーあのんハ神よ
ちうてニ人のまをを
ぐーうとものーえんぶう
ちをーどーどこやさもをえと
まのみくうしえうのこうう

さてんの金ハ
ひやうさ
りんふく
あさくまて
あつけやしき
せんこくハ
あるて
ふるされハ

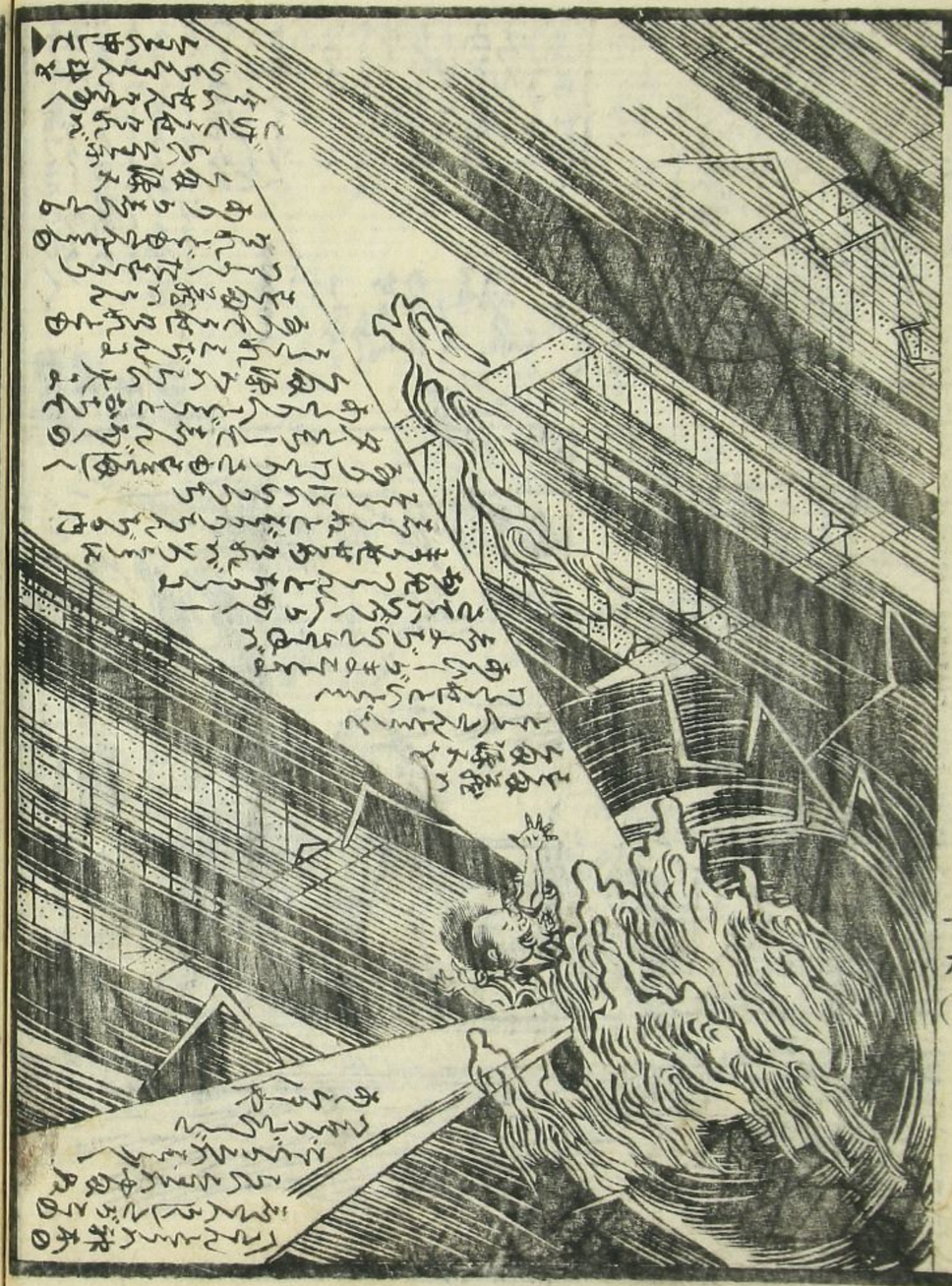
きそんの
りんふ
ぬそく
それとも
ぎやうふ
りれを
とうや
死人とうも
ありとふ
きくけぜんこのこと
しやうぶせんとどやしる
それより吉内さんのんハ
花ひらがく
しんをんど
ねんとそつて
ありやとえーくて
ア
いんどもとく
いのものこの
えんざう

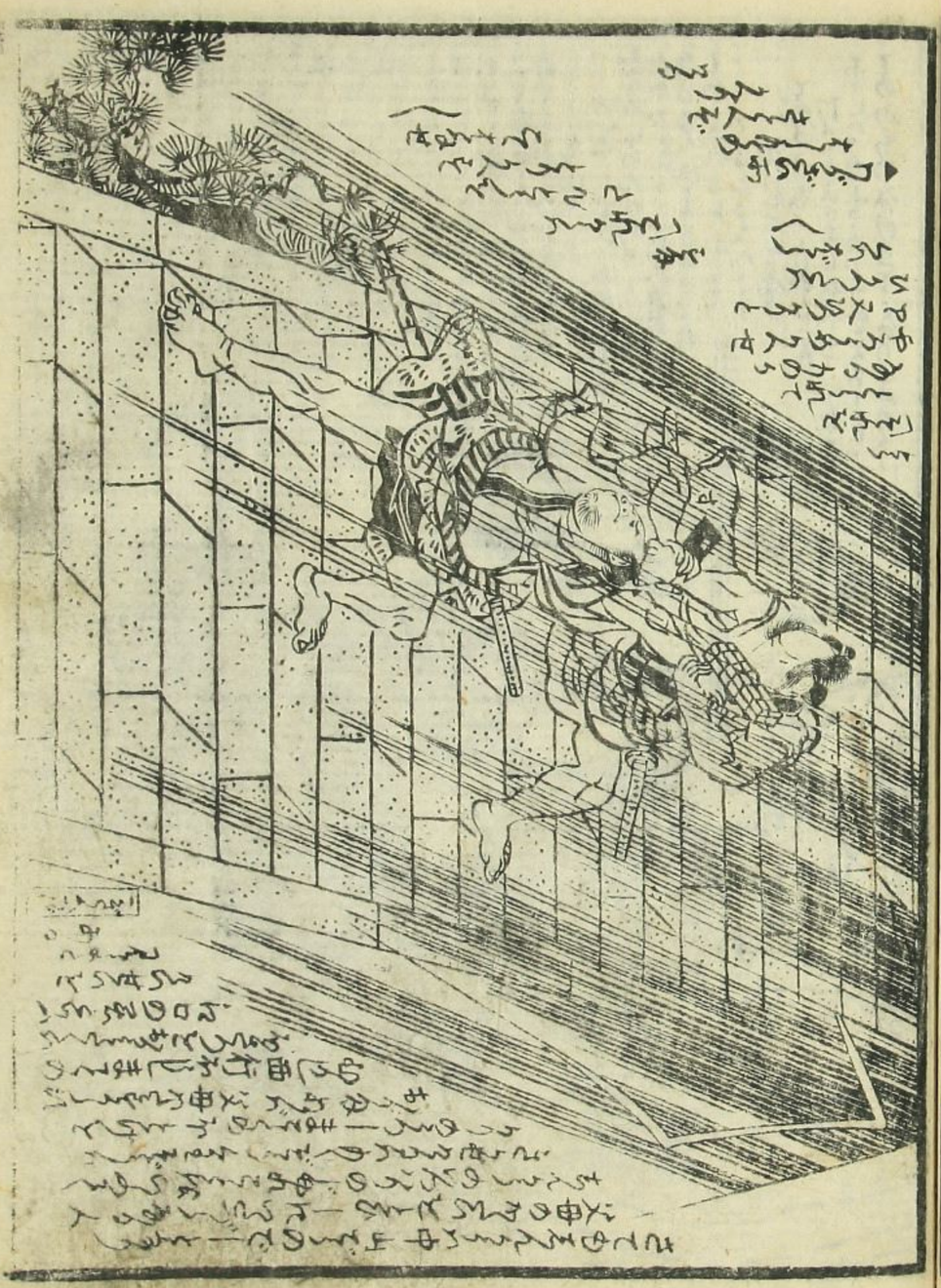
國貞画

姥扇輔作

ゝゝるに
吉門
さんりんの
ゝゝゝゝ
あゝゝゝ
いぐゝた
中山ちに
たどゝ者り
ゝのこゝゝ
ゝてせゝゝに
おめゝからんと
いゝゝよゝゝけゝゝち
きゝをゝゝゝ上人ゝゝくゝと
ゝけゝれゝちゝゝ出ゝゝひ
ゝゝゝゝ吉門さんりんの
ありさゝゝおゝゝゝゝ世を
さゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
きゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝのゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝんゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝ

▲若たち
若内さんのれんのるをわいるのかりひ
じちんきろう





「ときは義やヤイく」
「ときは義どのいの〻〻」

「とゝさんのゝゝさゝゝどーや

「とんざ
ゆゝゝが
ゆゝてゝ
ゝゝさる

高砂の恋

松根よりこれば
緑濃し
梅花をあれば
花衣
雪をめぐらす
森の紙
鶯くさのく
さうーのまい
あこがうつてか
四のさまりあうぎのかと音
ちんれのとこさろづき
ちまぐのあうちいこん
あいもらくねとあぐく
けくさきうちいえりまるる
まるさごのうくいのあくま
こがれていこんせんがんアをつぐうは
こでやうーんのまとあるまろ
つさきとみーつのめんごよてこてもあよ
あふまひのまんのりとあてねんらのやたう
とげーぶりんのかまれ今代のふこがよをうけて
ろんやあうあんとことりのさうへだんごいふあきの
とぶきをやでこきまのりのぐりやきうり
ろうあぐきをれりくああそがれらんのえ
れひのやうんひとよこいねぐひーこてまうと
けあんのえんりとうやまろてりうと

○尾陽東壁堂藏書目録

諸禮大學

泥尾先生著　繪入註書
歌川國直画　大本　全一冊

幼きものの白き糸のごとく茅にはきくく流り易きものなれば
吾うこれものよりの行ハあるべく世の中人
禮義をとく會得とあ身を善名を挙ることあり
ならるべく信切まをく導く師ハ稀まく杜撰のもの多けまをもの用うく紙きらうべも
乃ち礼をむさ礼をうーるべ人ハ多くもく不義不孝うーく衆くにうーるべ
教へのあるきハ色あるべーとも著す大学諸礼うまちびをく氏をうとも生べくとある
ぶき行ひの評要をを仮名文章に書注しくひるるをきるぶもんを
解一字をこのうよとろくーよ結成加へ註書ハのうーの孝行忠信の傳を為ーー婚
礼の図式もりーにてとくひとをやふ載ゼ宜べを半ーとをーく学ぶんハ
れのがうーく人の尾をるんの芝をあつれを名誉の太子とること師ハ教を受んとうハ
年学べのちーくも丹上やなる一書の珍重廣大なること筆紙ひーのく知らせ也

御家書札文海

青蓮院宮御門人
梅厓先生筆　大本全一冊

先生の筆力はあまねく世に知ることなれど見ぬ人この書札は宮上の出来まねく彫刻も優せをーまた精工のように成ることを一字一点筆一法を以て正に見聞筆数得ぬ人とあらんよりふるふ小稿ーー陳年四志雅書にいてんと思へべーー

早速千字文

御家流
梅厓先生書　大本全一冊

此千字文は雅俗の紙の業文に必用の文字のみ成るを先生半歌の中に有るを一点筆の書ありその筆力の玄妙なる事一寸と見べーー又楷書まくとぐーく正文ーーーーー

妙薬手引草

申齋主人著
中形本臨中堂法の出来
全一冊

万能必用ーーー

ことに法のぐーよりとかきくんのかるる書ありー世にこそうやくをもとめしる事あまたこの書ども多くきことのとくく即効のことあり方ーーこの書に有るーーーー薬の法は年来ーーーー

合類方書摘要

常陽良医 小川宗本撰書　小本全五冊

[illegible]

醫家千字文

大本全一冊

[illegible]

日用暦談

小林隨景先生著　全一冊

[illegible]

晴雨考

吉雄南皐先生著　附名分指中本之

全一冊

一年三百六十日晴雨風雲量るべうもなし吉雄先生五運六氣の理を究め天地の機密成うがひさぐべくあらハひとりこの小冊宝暦甲寅の頃ものしるしく時ならぬまで士農工商にいたるまぐ常にこの書をよく晴紀ゑく万事成おこなうべ身を護り生成やしなの益あること必然なるべし日用の重宝ならぬりかかる書

立花當用集

木紙形立花ひとり稽古の書多り

全一冊

初心のひとびとこの書にしたがひ紙用ひ色彩に師にあらずしたがひ立花の新意をあらはす妙まにいたるの珍本多り且図式を必ずく画きしるしたるは見合色とあり七夫のごとくなるべ

將棋定跡集

横とぢ用ひ本　情中

役利の本多り

全二冊

將棋執心のあまたとしどもなほ定跡なしとすうう秘するのみあるハ上達するとあるべうしたこの本ハさしかの組の式を出し初心をうちびくの本

第八宝珠の獨稽古あり

士朗隨筆

枇杷園大人著　初編　全一冊

士の書ハ士朗大人年ごろ俳諧の座にとろ筆せうもを深く古人の志を慕ふのうち名ある俳人の一寿支をど筆ま隨しく書分おろまいしをひとすくるたひとあるく棹ま上せ俳諧にあそぶ人くハこの出筆よりくく味へ多助けとあること大ようるるど殊さう蕉翁の真蹟までを写しいさまいくまバけ上あるべうかるく又ひとびひき隨筆あり

俳諧五七集　枇杷園大人著　半紙形小本　全五冊

あるを先生生涯俳諧の集多き中にも殊よりすぐれたる新奇と言ふべし風雅の教編をえらびて五七集とはいへり先生一世の雅莫大なる名海内に芳しく桐花言葉の絶妙なる凡人と論じ難し

この巻よりぬきいでるものハ情中うるはしく句意深さより深き味ひをよく解し良おのゝ〳〵秀句を吐くの後りとなるべき俳書なり

雅語音聲考　離屋鈴木先生著　本居大人補　全一冊

おゝそ古事記ハ多くの歌ひを多きうんと思ふ人くハしの書よりよくあらひ人ハんこゝよりの記師よ作るるよりもまさるうまくこゝろよ一冊の書なれども万巻をよむのちゝ成おこ仮大義のこと成載らもてり

夢みすゝこの物語六樹園大人著　全二冊

ちゝきこゝろ〳〵和学のさうんるよりこゝてふもの仮名つゝひ文書かゝ作ゝ〳〵のうさに歌ゝ書ものをわさるこのへども

その大醫のそゝ〳〵く廣く雅中の深義ハ義味ハ義〳〵こゝ二書一書

ふるよりむすゝくて成そこひまいてこひの書ハ六樹園大人〳〵こゝ

こゝもぐれ〳〵ゝ書どをいこゝ〳〵あるこゝ文書に書ゝ〳〵く仮名つゝひまぐよ

歌和ひゝ〳〵こゝ歌よゝ雅文をまひものゝ〳〵ゝ仮名右をまひ書

ゝ。この書にゝ〳〵く深義を書ゝ〳〵ゝ大人の物よ

ゝゝんを一快中にありぬべし。且この文雅宇治拾遺の雅文ゝよりも

作ゝ〳〵ゝ〳〵ゝ〳〵

狂歌作者部類　六樹園大人撰　繪入大本　全二冊

世にさまざまの歌のあつめを集めたる文あまたこれあるとぞ聞うけたまはるその師の風をのこようとしてこの歌のさまをあつめうつしたるびの人〳〵まことに琴棋書画をこのみ古雅今樂の差別なく世のことそのいとまをもとめて秀逸をえらびとのみとをうけ年よりむかしのくまかをこそまことに歌人名家のよろこびなるべし

増補渡世肝要記　全二冊

紙幸ひらかな絵入

士農工商身を生業成ればこれ家業なり商人和歌しく系譜図のりをひらく捷径の教訓をのこす前編有益のことのをを載て子どもにとゝのへもよろこばるゝ絵を交ぜ教訓のさとし

答問録　本居大人著　大本　全一冊

この書はわが人本居大人の歌書のうちにくはしくこれをものしるすなり

信海三十六歌仙　石摺折本一帖

信海翁八幡山の豊苑坊とて流平の第三流世よきこえ絵画をもこの墨蹟の金きんとくに浮ぶ書法をよろこぶ人多し一紙一毫八幡の筆力をふるふ真蹟の石ずりをもとめ筆をもとめ絵画とするべきこと平なり

通俗西湖佳話　全本四冊

この書は唐土の勝地西湖の奇蹟を演ぶるなり今世にもてはやす絵入よみ本は多くこの中より撰ぶなり実に美談の綴るるもの小説の雅趣文人才子の
主客ともべき奇妙の結成なるべし西湖とのたいへんより文人才子の
あそび処なるべく風流をこむるの観楽の賞業なる業中にわきまえるべし

蕙齋麁画　初編一冊　二編一冊

先生の画帖世にひろまりてあまたの画粉の雖あれどもこの麁画ことにあり
ひろまる事画は筆意さびをもとめ見るべし一種の生業形容をもとめ
目をもとめ見るべし易き画格のことをもとめ見れば初学のものにもなるべし筆の
ことばの自在深くこもれる画粉も備りて妙なるべし

鶉衣　半掃庵也有翁著　全四冊

半掃庵也有翁は雅名を春郭にとどろかせり滑稽者流の俊英なり特歌文
章に富み清新奇絶の一家の雅風実なること一日一言
高邦の如くすべて完備なり新奇臺中に高踊ごとく生涯の滑稽なる
うべこの書は翁の真捨なりもて奇とする文章式もくく採集してこの反の好士の
文をあれ便りに備ふ書よりそつくもんるは自然雅文の妙をきわめる書中に滑稽深べし

北齋画譜　前北齋為一老人筆　全三冊

為一老人の画はすべて十二編ありてよく奇巧の
妙を示す一牡十三編もつづき今彫刻のまの
奇巧精密世界まるべし紅毛人も舌を巻目をとどめこの譜一快にぞめう

名家畫譜　眞野桃溪先生輯　大本　全三冊

世に書畫をこのむ人多く名の先生にしたがうて一紙半切の畫をもひあるゝ師とゝのゝ
ゝく學ぶものも諸名家の書畫を愛玩するゝ雅中の癖まことにとゝのゝ
ゝ名筆をあつめ名譽の畫を集るゝ當時蒐集の畫
ゝとゝふとも遠近のゝ人ひゝゝくゝ求すゝ潛ゝけきゝびまゝゝくゝ古人の畫をゝとゝもるゝ
ゝとゝゝぶゝ手ゝゝゝきゝゝゝゝゝゝ——この畫譜ゝ於るゝ世に名ゝる諸名家の筆をゝゝゝ
ゝく孫よ詩文ゝ加ゝゝゝゝゝ海内無双の畫隱本ゝゝゝゝゝ初ゝゝゝゝゝ好事ゝ家も筆を
ひゝゝく寿と称せん且書畫の送物ゝゝゝゝゝ家ゝゝゝゝゝ名編ゝゝゝゝゝゝ

早稲田大学図書館
011688991651